



第70回米国肝臓学会議(AASLD 2019)

川口 和紀

金沢大学附属病院消化器内科特任教授

はじめに

2019年11月8日～12日にかけて、AASLDがボストンにて開催されました。AASLDは例年この時期ですが、米国東海岸は春秋が短く、夏冬が長いとされ、すでに冬の装いでした。テレビニュースを見ると、カナダ方面は吹雪のある厳しい気候になっているとのことでした。

ボストンの会場はいつものJonh B. Hynes Veterans Memorial Convention Centerでありました(写真1)。前回3年前の当地での開催時と比較すると、今回はParallelやPlenary sessionの一部がSheraton Hotelのballroomで行われ、また企業展示がゆったりとした感じでありました。本年は3,331題の演題応募があり、約70%がアクセプトされたとのことでした。

総会の概要

初日はSIG(Special Interest Groups)という、各肝疾患の病態にかかわるテーマの発表があり、すでに多くの参加者がいました。腸肝連関や肝再生もあり、肝オルガノイドなど、各トピックの報告がありました。腸内細菌に関しては、Clinical Research Workshopでもテーマとされていました。

2日目は、Post Graduate CourseやBasic Research Symposiumのsessionがありました。前者は日本では生涯教育講演会に相当するもので、本年はPrecision Medicineがテーマとなっており、肝腫瘍のみならず肝線維化や自己免疫性肝疾患の各疾患についての精密医療を中心とする内容でした。後者は、肝や胆管の発生、再生医療についての内容で、特に肝の前駆細胞やiPS細胞を利用した組織構築に関して日本人研究者による講演が複数ありました。

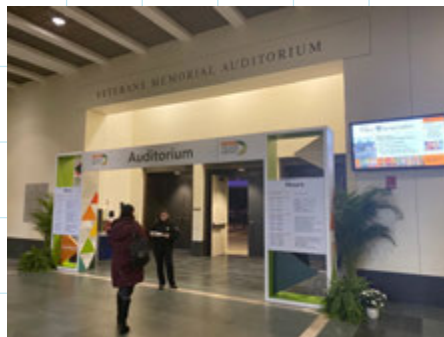


写真1 会場風景

SAMPLE